

令和5年度
東京大学入学者募集要項
(前期日程)

出願期間		令和5年1月23日(月)～2月3日(金)	
試験期日	前期日程	文科一類・文科二類・文科三類	令和5年2月25日(土)・26日(日)
		理科一類・理科二類	令和5年2月25日(土)・26日(日)
		理科三類	令和5年2月25日(土)・26日(日)・27日(月)

[この「募集要項」は、入学手続きが完了するまで保管してください。]

〈不測の事態が発生した場合の諸連絡〉

災害等により不測の事態が発生した場合、本学入学者選抜に関する情報提供は次のウェブサイト等により行うので、出願及び受験の直前は特に注意してください。

【東京大学トップページ > 入学案内】

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/index.html>

受験生の皆さんへ

～未知なるものとの「対話」の場へ～



いま人類は、気候変動の問題はもとより、世界に広がる差別や不平等など、容易ならざる困難に直面しています。今般の新型コロナウイルス感染症の蔓延は、人々が集まり、話し合い、触れあうといった日常的な行為がいかに大切であるかを浮かび上がらせました。また、ロシアによるウクライナへの武力侵攻により、多くの方々が学びや研究の場のみならず、生活の基盤を失うなど、深く憂慮すべき事態が起こっています。このように、これまで前提としてきたさまざまな条件や常識が大きくかつ急速に変化することのある今日だからこそ、大学が安定的かつ長期的に果たすべき役割はますます大きくなってきています。

人類が抱える大きな課題に積極的に取り組む人材を育てることは、東京大学が社会から負託された使命です。多様な学問に基づく知を基盤に、学生たちには、自らの好奇心を沸かしたせ、仲間との対話を豊かに織りなす機会を充実させるなかで、他者を尊重する精神と創造性を育んでもらいたいと考えています。

その際、大切にすべきことは、未知と向かいあい、問いかけ、知ろうとする「対話」です。そうした対話の実践は、他者の小さな声にも耳を傾ける多様性の尊重や、社会との大きな連携にもつながるものです。対話を通して形作られる信頼があってこそ、地球環境のような人類共有の財産を皆で守ることや、社会に広がる閉塞感を乗り越える道筋を見出すことができるようになります。

対話の実践に加えて、学びを社会と結び直すことも重要だと考えています。学生たちが、自らの学びは社会の中でどのように位置づけられ、活用できるのかを知る機会を増やすため、国内外の学術機関や地域、産業界との連携・協働を進めています。そうした機会を通して、優れた対話力と他者の聞こえにくい声に耳を傾けることができる共感力を鍛えてもらいたいと思います。

入学をゴールではなく新たなスタートとしてとらえ、次世代のリーダーとして成長したいという強い意欲を持つ学生を東京大学は求めています。大学での学びに向けた備えとして私たちが最も大切だと考え、入学試験を通じて受験生の皆さんに求めているのは、単なる知識の量ではなく、身につけた知識を組み合わせる創造的に使いこなす力や、未知の課題に遭遇した時に自らに不足する部分を積極的に学ぶ姿勢を身につけていることです。

世界各国、全国各地からやってくる多様性豊かな学生たちが安心して学べるよう、今後も一層学びの機会を充実させていくと共に、学生たちが卒業するときに「東京大学で学んでよかった」と心から思えるような大学にしたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延のなかで、普段とは受験環境が異なり、不安に思う皆さんも多いと思います。東京大学は、入学者選抜の実施にあたり、感染症対策の専門家の意見を踏まえ、十分に安全な感染拡大防止体制をとりますので、安心して受験してほしいと思います。受験生の皆さんも、当日の選抜において心おきなく実力を発揮できるよう、健康管理と感染予防に努めていただきたいと思います。

東京大学と一緒に学問の扉を開きましょう。皆さんの挑戦を心から歓迎します。

令和4年11月9日

東京大学総長 藤井 輝夫

目 次

受験生の皆さんへ	
東京大学アドミッション・ポリシー	1
高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと	2
令和5年度 東京大学入学者選抜実施日程	4
個人情報の取扱いについて	5
I 選抜方式・実施期日	6
II 募集人員等	6
III 出願資格	12
IV 出願等について	13
V 障害等のある入学志願者について	13
VI 風水害等の災害により被災した入学志願者の検定料の免除について	14
VII 前期日程	
1 出願手続及び出願期間等	16
2 選抜方法	20
3 試験場	26
4 第1段階選抜合格者発表等	26
5 合格者発表	27
6 資料等の発表	27
7 入学手続	28
VIII 追加合格	30
IX 健康診断及び就学に関する情報提供書	30
X 諸手続	31
XI 入学後の外国語の履修について	31
XII トライリンガル・プログラム（TLP）の受講に当たっての注意事項について	31
XIII 後期課程への進学について	32
XIV 学生生活案内	33
別紙1 前期日程（理科三類）志願理由書の記入例	38
別紙2 令和5年度東京大学入学者選抜（一般選抜）前期日程試験の実施教科・科目等について	39
別紙3 過去3年間の志願者数，受験者数，合格者数，入学者数等（一般選抜）	41
別紙4 過去3年間の合格者最高点・最低点・平均点（一般選抜）	42
参考 令和6年度以降の東京大学入学者選抜の実施方法等について	43
・ インフォメーションサービス	（裏表紙）
・ 入学者選抜等に関する照会先	（裏表紙）

東京大学アドミッション・ポリシー

東京大学の使命と教育理念

1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民的エリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養とさらに豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずで、本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

入学試験の基本方針

したがって、東京大学の入試問題は、どの問題であれ、高等学校できちんと学び、身につけた力をもってすれば、決してハードルの高いものではありません。期待する学生を選抜するために実施される本学の学部入学試験は、以下の三つの基本方針に支えられています。

第一に、試験問題の内容は、高等学校教育段階において達成を目指すものと軌を一にしています。

第二に、入学後の教養教育に十分に対応できる資質として、文系・理系にとらわれず幅広く学習し、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視します。そのため、文科各類の受験者にも理系の基礎知識や能力を求め、理科各類の受験者にも文系の基礎知識や能力を求めるほか、いずれの科類の受験者についても、外国語の基礎的な能力を要求します。

第三に、知識を詰めこむことよりも、持っている知識を関連づけて解を導く能力の高さを重視します。

東京大学は、志望する皆さんが以上のことを念頭に、高等学校までの教育からできるだけ多くのことを、できるだけ深く学ぶよう期待します。

高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと

東京大学を志望する皆さんには、前掲のアドミッション・ポリシーにも明示されているように、本学に入学するまでに、できるだけ多くのことを、できるだけ深く学んでほしいと思います。以下、本学を受験しようと考えている皆さんに向けて、高等学校段階までの学習において、特に留意してほしいことを教科別に掲げます

国語

国語の入試問題は、「自国の歴史や文化に深い理解を示す」人材の育成という東京大学の教育理念に基づいて、高等学校までに培った国語の総合力を測ることを目的とし、文系・理系を問わず、現代文・古文・漢文という三分野すべてから出題されます。本学の教育・研究のすべてにわたって国語の能力が基盤となっていることは言をまちませんが、特に古典を必須としているのは、日本文化の歴史的形形成への自覚を促し、真の教養を涵養するには古典が不可欠であると考えからです。このような観点から、問題文は論旨明快でありつつ、滋味深い、品格ある文章を厳選しています。学生が高等学校までの学習によって習得したものを基盤にしつつ、それに留まらず、自己の体験総体を媒介に考えることを求めているからです。本学に入学しようとする皆さんは、総合的な国語力を養うよう心掛けてください。

総合的な国語力の中心となるのは

- 1) 文章を筋道立てて読みとる読解力
- 2) それを正しく明確な日本語によって表す表現力の二つであり、出題に当たっては、基本的な知識の習得は要求するものの、それは高等学校までの教育課程の範囲を出るものではなく、むしろ、それ以上に、自らの体験に基づいた主体的な国語の運用能力を重視します。

そのため、設問への解答は原則としてすべて記述式となっています。さらに、ある程度の長文によってまとめる能力を問う問題を必ず設けているのも、選択式の設問では測りがたい、国語による豊かな表現力を備えていることを期待するためです。

地理歴史・公民

過去と現在、世界の各地域など、人間社会で一見バラバラに起こっている事象は相互に関連しています。それらについて一定の知識を身につけることはもちろん必要ですが、東京大学は細部にわたる知識の量ではなく、知識を関連づけて分析、思考する能力を重視します。そうした能動的で創造的な思考力は、暗記を目的とした勉強ではなく、新聞やテレビなどで報じられる現代の事象への関心や、読書によって養われる社会や歴史に対する想像力を通じて形成されます。そのため本学を志望する皆さんには以下の点を期待します。それに留意して学習に励んでください。

- 1) 総合的な知識

本学は、狭い特定分野の知識や能力（いわゆる「一芸」）ではなく、幅広く、総合的な知識を求めます。それが複雑な社会現象を理解する上での前提となるからであり、狭い視野から導き出される結論は独善

的なものになりがちだからです。地理歴史の入試問題においても、幅広い分野からバランスよく出題するようにしています。

ただし、入学試験の解答に必要とされる知識の程度は、現行の高等学校学習指導要領を超えるものではありません。

- 2) 知識を関連づける分析的思考力

地理歴史・公民の各科目では、便宜上の理由から、様々な知識が細切れに習得されることになりがちですが、そのような各分野の知識を関連づけて理解する能力が求められます。そのためには、入学試験で選択する科目だけに偏ることなく、地理歴史・公民の各科目を高等学校段階で広く学習し、複雑な社会現象を捉える眼を養うことが期待されます。入試問題において、地図、図表などの資料を用いた問題の出題されることがあるのも、単なる知識の量ではなく分析的思考力を測るためです。

- 3) 論理的表現力

本学は、思考を論理的に表現する能力を重視します。入試問題においても、分析的思考力と論理的表現力の双方を的確に測る目的で、文章で解答する論述式の問題が出題されます。

数学

数学は、自然科学の基底の一分野として、人間文化の様々な領域で活用される学問であり、科学技術の発展に貢献するだけでなく、社会事象を客観的に表現し予測するための手段ともなっています。そのため、東京大学の学部前期課程（1，2年生）では、理科各類の全学生が解析・代数を必修科目として履修し、文科各類の学生も高度な数学の授業科目を履修できるカリキュラムが用意されています。

本学に入学しようとする皆さんは、入学前に、高等学校学習指導要領に基づく基本的な数学の知識と技法を習得しておくことはもちろんのことですが、将来、数学を十分に活用できる能力を身につけるために、次に述べるような総合的な数学力を養うための学習を心掛けてください。

- 1) 数学的に思考する力

様々な問題を数学で扱うには、問題の本質を数学的な考え方で把握・整理し、それらを数学の概念を用いて定式化する力が必要となります。このような「数学的に問題を捉える能力」は、単に定理・公式について多くの知識を持っていることや、それを用いて問題を解く技法に習熟していることとは違います。そこで求められている力は、目の前の問題から見かけ上の枝葉を取り払って数理としての本質を抽

出する力、すなわち数学的な読解力です。本学の入学試験においては、高等学校学習指導要領の範囲を超えた数学の知識や技術が要求されることはありません。そのような知識・技術よりも、「数学的に考える」ことに重点が置かれています。

2) 数学的に表現する力

数学的に問題を解くことは、単に数式を用い、計算をして解答にたどり着くことではありません。どのような考え方に沿って問題を解決したかを、数学的に正しい表現を用いて論理的に説明することです。入学試験においても、自分の考えた道筋を他者が明確に理解できるように「数学的に表現する力」が重要視されます。普通の学習では、解答を導くだけでなく、解答に至る道筋を論理的かつ簡潔に表現する訓練を十分に積んでください。

3) 総合的な数学力

数学を用いて様々な課題を解決するためには、数学を「言葉」や「道具」として自在に活用できる能力が要求されますが、同時に、幅広い分野の知識・技術を統合して「総合的に問題を捉える力」が不可欠です。入学試験では、数学的な思考力・表現力・総合力がバランスよく身につけているかどうかを判断します。

理科

理科は、文系・理系を問わず、社会における自然科学、先端技術が関連する様々な分野において、問題の本質を見つけ、課題解決に導くための考え方の基礎となる教科です。このために、東京大学の学部前期課程(1, 2年生)では、理科各類の全学生が物理・化学・生物を必修科目として履修し、文科各類の学生も高度な自然科学の授業科目を履修できるカリキュラムが組まれています。本学を受験する皆さんには、高等学校で理科の各科目を広く勉強し、理科に関する基礎的な力を身につけることを期待しています。このために、入学試験では以下の能力を判断するための問題が出題されますので、そのような力を養成する学習を目指してください。

1) 自然現象の本質を見抜く能力

自然現象を深く観察し、実物に即して現象の本質を見抜く発見力・洞察力を重視します。

2) 原理に基づいて論理的にかつ柔軟に思考する能力
自然現象に関する知識の正確さとともに、自然現象を科学的に分析し、深く掘り下げ、論理的に思考する能力を重視します。また、単なる計算力を問うのではなく、自然現象を定量的に考察する能力も重視します。求められる自然現象に関する知識は、現行の高等学校学習指導要領の範囲を逸脱することはありませんが、これらを十分に理解・消化し、論理的に組み合わせ活用する能力が求められます。

3) 自然現象の総合的理解力と表現力

自然現象は複合的な現象なので、一つの分野の特定の知識・技術のみではなく、幅広い分野の知識・技術を統合し総合的に理解する能力を重視します。また、得られた結論を、客観的に説明する科学的な表現

力を重視します。

外国語

人間は「ことば」なしでは生きていけません。誰もが「ことば」で考え、相手の感情を知り、自分の思考を相手に伝えます。「世界的視野をもった市民的エリート」を育てることを使命とする東京大学は、教養教育(リベラル・アーツ教育)を重視しており、そのため、入試問題においては、多くの外国語による受験に門戸を開いています。具体的には、英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語等による受験が可能です。共通して求める能力をまとめるとすれば、「外国語による理解力と表現力」ということに尽きます。

いずれの外国語についても、本学で学ぼうとする皆さんは、高等学校までの教育課程の範囲内で、それぞれの言語によるコミュニケーションに必要とされる理解力と表現力を備えていることが期待されますので、その言語についての正確な知識に裏打ちされた論理的な思考力の養成に努めてください。外国語文の和訳、和文の外国語訳、文法的知識を問う問題は言うまでもなく、ときにその言語の背景にある社会・文化への理解を要求する問題が出題されるのも、そうした努力の成果を見るためです。

以下、外国語として選択されることの最も多い英語について若干付言します。現代社会において、市民のエリートとしての責任を果たそうとすれば、英語力が重要な要素であることは明らかでしょう。ここで求められる英語力は、具体的には3点にまとめられます。

1) 英語による受信力

知的内容のあるコミュニケーションが交わされる場において、相手側の英語による発信を正しく理解する能力が必要不可欠であることは言うまでもないでしょう。読解・聴解を含めた受信力を問う問題が出題されるのはそのためです。

2) 英語による発信力

同様の場において、自分の述べたいことを正しく英語で表現できる発信力が不可欠なこともまた明らかです。英作文の問題が出されるのはこのためであり、現在、「話す」能力の試験を課すことができないのはもっぱら技術的な理由によります。

3) 批判的な思考力

上記2点の能力を発揮し、健全なコミュニケーションを達成するためには、例えば常に何が「正しい」のかを問うような想像力豊かな批判的視点がなければなりません。それがなければコミュニケーションの場には誤解と曲解が渦巻くことになります。

こうした英語力を身につけるためには、発音・語彙・文法構造などの細部の把握と、論理構成の理解や文化的背景についての知識に裏打ちされた大局的な把握との両面での訓練が必要であり、教養教育ではそうした英語教育を目指しています。そのため、本学を志望する皆さんには、高等学校学習指導要領の範囲内で、そうした英語カリキュラムに対応できる能力を身につけるように特に意識して、学習を進めてほしいと思います。

令和5年度 東京大学入学者選抜実施日程

大学入学共通テスト実施 令和5年1月14日(土)・15日(日)

東京大学第2次学力試験	
前期日程	項目
令和5年 1月23日(月)～2月3日(金) (ウェブ・郵送により手続)	出願受付
2月14日(火)(ウェブ)	第1段階選抜の結果発表
2月15日(水)ごろ(ウェブ)	第2次学力試験受験票等発行
2月25日(土)・26日(日)・27日(月) [27日(月)は理科三類のみ]	第2次学力試験実施
3月10日(金)(ウェブ)	合格者発表
3月11日(土)～15日(水) (ウェブ・郵送により手続)	入学手続 (入学後の外国語履修の申請を含む)

諸手続・健康診断 令和5年3月末～4月初旬

個人情報の取扱いについて

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「東京大学の個人情報等に関する取扱規則」に基づいて取り扱います。

1. 出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務を行うために利用します。
2. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
3. 上記1及び2の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。
については、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供します。
4. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、受験番号、大学入学共通テストの受験番号、可否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送付します。
5. 出願に当たって知り得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収関係の業務を行うために利用します。

I 選抜方式・実施期日

本学の一般選抜は、「分離分割方式」（前期日程）により実施します。

個別学力検査等（第2次学力試験）の実施期日は、次のとおりです。

前期日程 令和5年2月25日（土）・26日（日）・27日（月）（27日（月）は理科三類のみ）

志願者は、分離分割方式により入学試験を行う国公立大学・学部（注）のうち、「前期日程」で試験を実施する大学・学部から一つ、「後期日程」で試験を実施する大学・学部から一つ、合計二つの大学・学部に出願することができます。したがって「前期—後期」の併願は認められますが、「前期—前期」、「後期—後期」の併願は認められません。

この際、「前期日程」の試験に合格し、3月15日までに入学手続を行った者は、「後期日程」に出願済であってこれを受験した場合でもその合格者とはなりません。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会の確保については、これを保障します。選抜の方法は、2月の前期日程試験実施後に公表します。

（注）独自の日程で入学者選抜を行う公立大学・学部については、公立大学協会ウェブサイト（<http://www.kodaikyo.org/>）を参照。

II 募集人員等

1 募集人員

教養学部に入학을許可する学生の募集人員は、次のとおりです。

		前期日程（人）
教 養 学 部	文科一類	401
	文科二類	353
	文科三類	469
	理科一類	1,108
	理科二類	532
	理科三類	97
合 計		2,960

2 科類と進学

(1) 前期課程教育

本学に入学を許可された学生は、教養学部にも所属して前期課程2年間の学修をします。(前期課程の修業年限は2年です。)

そのうち初めの1年半は、文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類の六つの類に分かれ、リベラル・アーツ教育によって幅広く深い教養と豊かな人間性を培うとともに、後期課程の専門教育に必要な基礎的な知識と方法を学びます。後の半年は、進学が内定した学部・学科での学修の基礎となるべき専門教育科目を主として学びます。

(2) 前期課程の教育研究上の目的

特定の専門分野に偏らない総合的な視野を獲得させるリベラル・アーツ教育を行い、同時に専門課程に進むために必要な知識や知的技能を身につけ、専門的なものの見方や考え方の基本を学びとらせることを目的とします。

(3) 前期課程における科類の特徴

文科一類：法と政治を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と社会について広い見識を養います。

文科二類：経済を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と組織について広い見識を養います。

文科三類：言語、思想、歴史を中心にして人文科学全般の基礎を学び、関連する社会科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と文化的・社会的営為について広い見識を養います。

理科一類：数学、物理学、化学を中心にして数理科学・物質科学・生命科学の基礎を学び、自然の基本法則に関する探究心を養い、科学や技術と社会の関わりについても理解を深めます。

理科二類：生物学、化学、物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び、自然の諸法則に関する探究心を養い、科学や技術と社会の関わりについても理解を深めます。

理科三類：生物学、化学、物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び、人間についての探究心を養い、生命と社会の関わりについても理解を深めます。

(4) 後期課程への進学

学生は2年間の前期課程の後、後期課程へ進学します。

進学する学部・学科等は、学生の志望と成績等をもとにして内定されます。

前期課程の各科類から主として進学できる後期課程の学部・学科は以下のとおりです。

(〔6年制〕は前期課程2年、後期課程4年の学科を示します。他は全て、前期課程2年、後期課程2年の4年制学科です。)

- 文科一類……**法学部**〔第1類, 第2類, 第3類〕
教養学部〔教養学科, 学際科学科, 統合自然科学科〕
- 文科二類……**経済学部**〔経済学科, 経営学科, 金融学科〕
教養学部〔教養学科, 学際科学科, 統合自然科学科〕
- 文科三類……**文学部**〔人文学科〕
教育学部〔総合教育科学科〕
教養学部〔教養学科, 学際科学科, 統合自然科学科〕
- 理科一類……**工学部**〔社会基盤学科, 建築学科, 都市工学科, 機械工学科, 機械情報工学科, 航空宇宙工学科, 精密工学科, 電子情報工学科, 電気電子工学科, 物理工学科, 計数工学科, マテリアル工学科, 応用化学科, 化学システム工学科, 化学生命工学科, システム創成学科〕
理学部〔数学科, 情報科学科, 物理学科, 天文学科, 地球惑星物理学科, 地球惑星環境学科, 化学科, 生物化学科, 生物学科, 生物情報科学科〕
薬学部〔薬科学科, 薬学科〔6年制〕〕
農学部〔応用生命科学課程, 環境資源科学課程〕
医学部〔健康総合科学科〕
教養学部〔統合自然科学科, 学際科学科, 教養学科〕
- 理科二類……**農学部**〔応用生命科学課程, 環境資源科学課程, 獣医学課程〔6年制〕〕
薬学部〔薬科学科, 薬学科〔6年制〕〕
理学部〔地球惑星環境学科, 化学科, 生物化学科, 生物学科, 生物情報科学科〕
工学部〔応用化学科, 化学システム工学科, 化学生命工学科, マテリアル工学科, システム創成学科, 機械工学科, 計数工学科, 都市工学科, 精密工学科, 社会基盤学科, 航空宇宙工学科〕
医学部〔健康総合科学科, 医学科〔6年制〕〕
教養学部〔統合自然科学科, 学際科学科, 教養学科〕
- 理科三類……**医学部**〔医学科〔6年制〕〕

(5) 後期課程の学部・学科等

後期課程の修業年限は、2年（ただし、医学部医学科、農学部獣医学課程及び薬学部薬学科は4年）です。

- 法学部** 第1類（法学総合コース）
 第2類（法律プロフェッション・コース）
 第3類（政治コース）

経済学部	経済学科 経営学科 金融学科
文学部	人文学科 哲学，中国思想文化学，インド哲学仏教学，倫理学，宗教学宗教史学，美学芸術学，イスラム学，日本史学，東洋史学，西洋史学，考古学，美術史学，言語学，日本語日本文学（国語学），日本語日本文学（国文学），中国語中国文学，インド語インド文学，英語英米文学，ドイツ語ドイツ文学，フランス語フランス文学，スラヴ語スラヴ文学，南欧語南欧文学，現代文芸論，西洋古典学，心理学，社会心理学，社会学の各専修課程
教育学部	総合教育科学科 基礎教育学専修（基礎教育学コース） 教育社会科学専修（比較教育社会学コース，教育実践・政策学コース） 心身発達科学専修（教育心理学コース，身体教育学コース）
教養学部	教養学科 超域文化科学分科（文化人類学，表象文化論，比較文学比較芸術，現代思想，学際日本文化論，学際言語科学，言語態・テキスト文化論の各コース） 地域文化研究分科（イギリス研究，フランス研究，ドイツ研究，ロシア東欧研究，イタリア地中海研究，北アメリカ研究，ラテンアメリカ研究，アジア・日本研究，韓国朝鮮研究の各コース） 総合社会科学分科（相関社会科学，国際関係論の各コース） 国際日本研究コース（注） 学際科学科 科学技術論，地理・空間，総合情報学，広域システム，国際環境学（注）の各コース 統合自然科学科 数理自然科学，物質基礎科学，統合生命科学，認知行動科学，スポーツ科学の各コース （注）英語のみによる履修が可能なコースです。
工学部	社会基盤学科 設計・技術戦略，政策・計画，国際プロジェクトの各コース 建築学科 都市工学科 都市環境工学，都市計画の各コース 機械工学科 機械情報工学科 航空宇宙工学科 航空宇宙システム学，航空宇宙推進学の各コース 精密工学科

電子情報工学科
電気電子工学科
物理工学科
計数工学科
 数理情報工学，システム情報工学の各コース
マテリアル工学科
 バイオマテリアル，環境・基盤マテリアル，ナノ・機能マテリアル
 の各コース
応用化学科
化学システム工学科
化学生命工学科
システム創成学科
 環境・エネルギーシステム，システムデザイン&マネジメント，知
 能社会システムの各コース

理 学 部 数学科
情報科学科
物理学科
天文学科
地球惑星物理学科
地球惑星環境学科
化学科
生物化学科
生物学科
生物情報科学科

農 学 部 応用生命科学課程
 生命化学・工学，応用生物学，森林生物科学，水圏生物科学，動物
 生命システム科学，生物素材化学の各専修
環境資源科学課程
 緑地環境学，森林環境資源科学，木質構造科学，生物・環境工学，
 農業・資源経済学，フィールド科学，国際開発農学の各専修
獣医学課程 [後期課程 4 年制]
 獣医学専修

薬 学 部 薬科学科
薬学科 [後期課程 4 年制]

医 学 部 医学科 [後期課程 4 年制]
健康総合科学科
 環境生命科学，公共健康科学，看護科学の各専修

(6) 後期課程の各学部の教育研究上の目的

法 学 部：法学と政治学を中核とした教育研究を通じて、幅広い視野をそなえ、法的思考と政治学的識見の基礎を身につけた人材を養成することを目的とします。

医 学 部：生命科学・医学・医療の分野の発展に寄与し、国際的指導者になる人材を育成することを目的とします。すなわち、これらの分野における問題の的確な把握と解決のために創造的研究を遂行し、臨床においては、その成果に基づいた全人的医療を実践しうる能力の涵養を目指します。

工 学 部：豊かな教養、国際性、科学技術に対する体系的な知識を身につけ、研究、開発、設計、生産、計画、経営、政策提案等において、工学的手法を活用して人類社会の持続と発展に貢献できる指導的人材を養成することを目的とします。

文 学 部：人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解を目指して、文献読解、資料分析、実験・調査といった基本的な方法論を身につけ、広く深い素養を獲得することを通じて、人類文化の継承と発展に寄与しうる人材を育成することを教育研究の目的とします。

理 学 部：自然界の仕組みを体系的に理解して、自然科学の諸分野で先端的な研究を行う人材及び理学の素養の上に社会で創意ある活動を行う人材養成を目指し、学生自らが第一線の研究に触れる中から自然に問いかけ思索する能力を修得させることを目標とします。

農 学 部：農学を構成する応用諸科学に関する専門教育を段階的・体系的に行い、食料・資源・環境等の問題の解決に必要な高度の専門知識と幅広い視野を有し、社会・文化・産業活動を通じて地球社会の要請に応えることのできる洞察力・実践力・指導力を備えた人材を育成することを目的とします。

経済学部：経済学・経営学の多様な分野に関する理論的・実証的な学説・知識を体系的に講義するとともに、演習などで個別研究を行う機会を提供することによって、国際的な視野に立って実業界・官界・学界などで活躍する人材を養成することを目的とします。

教養学部：学際的・統合的な研究と教育の発展を前提として、専門分野の基礎学力の養成、専門分野間の横断や融合や統合を可能にする総合的理解力・判断力の養成、問題解決能力を備えた社会的リーダーシップをとりうる人材の養成、世界に開かれた視野と発信力の養成を教育研究上の目的とします。

教育学部：広い視野と学識にもとづいて深く教育学を中心とする専門的知識と教養を形成し、教育を中心とする諸分野の指導的人材を養成することを目的とします。

薬 学 部：医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質及びその生体との相互作用を対象とする学問体系です。本学部は創薬科学及び基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育研究の目的とします。

なお、後期課程への進学については、32ページの「XIII 後期課程への進学について」を参照してください。

Ⅲ 出 願 資 格

出願できる者は次の各号のいずれかに該当し、かつ、令和5年度大学入学共通テストのうち、本学が指定する教科・科目を受験した者としてします。(20～22ページ参照)

なお、本学では大学入学共通テストの過年度の成績は利用しませんので、令和5年度大学入学共通テストを必ず受験してください。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和5年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和5年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者のうち次の各項目の一に該当するもの及び令和5年3月31日までにこれに該当する見込みのもの
 - ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び令和5年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和5年3月31日までに修了見込みの者
 - ウ 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和5年3月31日までに修了見込みの者
 - エ 文部科学大臣の指定した者(昭和23年5月31日文部省告示第47号)
 - オ 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧大学入学資格検定に合格した者を含む。)及び令和5年3月31日までに合格見込みの者で、令和5年3月31日までに18歳に達するもの
 - カ 学校教育法第九十条第二項の規定により大学に入学した者であつて、高等学校卒業程度認定審査規則(令和四年文部科学省令第十八号)による高等学校卒業程度認定審査に合格した者
 - キ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和5年3月31日までに18歳に達するもの

※ ① 令和5年度大学入学者選抜大学入学共通テスト受験案内(出願資格)参照

② 上記キに該当する者とは、上記(1)、(2)及び(3)ア～カに該当しない者のうち、「外国人を対象に教育を行うことを目的にして我が国に設置された教育施設において高等学校に対応する3年に相当する学習歴を有するもの又は有する見込みのあるもの」で、申請者から提出された申請書類に基づき、本学の個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたものとしてします。

③ 上記キの個別の入学資格審査の申請期間は、すでに終了しています。

ただし、大学入学共通テストを受験した者で、新たに本学の受験を希望する者に限り、令和5年1月30日(月)～2月1日(水)(必着)の間、申請を受け付けますので、希望者は次の申請書類と返信用封筒〔長形3号(縦23.5cm, 横12.0cm)に郵便番号、住所、氏名を記載し、414円分(簡易書留)の切手を貼る〕を添えて、本学入試事務室に書留速達郵便(封筒の表に「入学資格認定申請書類在中」と朱書)で申請してください。

(申請書類)

- ・入学資格認定申請書(本学が定める様式:下記本学ウェブサイト参照)

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/adm-data/e01_02_02.html

- ・教育施設長発行（厳封）の卒業証明書又は卒業見込証明書
- ・教育施設の概要（教育施設の概要が明記された学校案内等）
- ・教育施設の規則（教科目、授業時間数及び卒業要件の明記されたもの）

（申請書類提出先・照会先）

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学入試事務室 電話番号 03-5841-2082

IV 出願等について

出願等については次のとおり取り扱います。

1 前期日程

文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類のうちから一つの科類に出願することができます。なお、複数の科類に出願した場合は、いずれの科類についても受験を認めません。

2 学内併願

学校推薦型選抜の合格者は、令和5年2月20日（月）までに入学手続を行った場合、前期日程試験を受験してもその合格者とはなりません。

また、外国学校卒業学生特別選考又は学部英語コース（PEAK）特別選考に出願した場合（出願後、資格がないと判断された者は除く。）は、前期日程試験の出願を認めません。

3 他大学学校推薦型選抜及び総合型選抜合格者の受験の取扱い

他の国公立大学・学部の学校推薦型選抜合格者は、2月20日（月）までに当該学校推薦型選抜を実施する大学・学部の定める学校推薦型選抜入学辞退手続により入学の辞退を許可された場合を除いて、本学を受験しても前期日程試験の合格者となりません。

また、他の国公立大学・学部の総合型選抜合格者は、2月20日（月）までに当該総合型選抜を実施する大学・学部の定める総合型選抜の入学辞退手続により入学を辞退した場合を除いて、本学を受験しても前期日程試験の合格者となりません。

V 障害等のある入学志願者について

本学では、障害等（下表参照）のある者が、受験上及び修学上不利になることがないように、合理的な配慮を行っており、そのための相談を常時受け付けています。

受験上の配慮については、内容によって対応に時間を要することもありますので、以下の連絡先から、電子メールにより、必ず事前に入試事務室まで相談の上、申請書類を請求してください。原則として次の期日までに申請書類を提出してください。

- ① 「点字解答」又は「代筆解答」を希望する場合
令和4年12月1日（木）

② 上記①以外の配慮を希望する場合

令和4年12月9日（金）

なお、申請書類提出期限後の申請については、引き続き配慮検討の対象となりますが、事前の配慮準備の関係で、申請が遅くなるほど、実際に提供できる受験上の配慮が限定されていきますので、なるべく早く申請書類を提出してください。申請のあったものについて、本学でその内容を審査の上、それぞれの障害の種類・程度に応じた受験上の配慮を決定し、通知します。通知の内容に疑義がある場合は、再度相談してください。

また、必要な場合には、志願者等との面談等を行うこともあります。

区 分	対 象 と な る 者
視 覚 障 害	1 点字による教育を受けている者 2 良い方の眼の矯正視力が 0.15 以下の者 3 両眼による視野について強度視野障害のある者 4 上記以外の視覚障害者
聴 覚 障 害	1 両耳の平均聴力レベルが60デシベル以上の者 2 上記以外の聴覚障害者
肢 体 不 自 由	1 体幹の機能障害により座位を保つことができない者又は困難な者 2 両上肢の機能障害が著しい者 3 上記以外の肢体不自由者
病 弱	呼吸器、心臓、腎臓の慢性疾患等のため、医療や生活規制を継続して必要とする状態にある者又はこれに準ずる者
発 達 障 害	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠如多動性障害等のため配慮を必要とする者
そ の 他	上記の区分以外の者で受験上の配慮を必要とする者

日常生活において、ごく普通に使用されている補聴器、杖、車椅子等を使用して受験する場合も、試験場準備等との関係から受験上の配慮として申請が必要です。

- 連絡先 電子メール nyuusil.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学入試事務室
電話番号 03-5841-2085
F A X 03-5841-2412

※ 第2次学力試験の外国語（英語）において、一部マークシートに解答する問題があります。大学入学共通テストでチェック解答等の配慮を申請している志願者は注意してください。

VI 風水害等の災害により被災した入学志願者の検定料の免除について

本学では、風水害等の災害により被災した者の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るため、令和5年度入学志願者に係る検定料を免除する特例措置を講じます。

対象者は、次のいずれかに該当する者です。

- 1 災害救助法（昭和22年法律第118号）が適用された地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者
 - ア 学資負担者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
 - イ 学資負担者が死亡又は行方不明の場合
- 2 居住地が福島第一原子力発電所事故により、帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

検定料の免除を希望する者は、出願前に以下のウェブページを参照の上、入試事務室（03-5841-2085）まで連絡してください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/tuition-fees/kenteiryomenjo.html>

申請のあったものについて、審査の結果、対象と判断した場合、納付すべき検定料を免除します。また、既に納付済みの検定料に関しては、審査の結果、対象と判断した場合、検定料額を返還します。

Ⅶ 前 期 日 程

1 出願手続及び出願期間等

(1) 出願方法

一般選抜では、ウェブ出願システムにて実施しています。以下①～③の手続きが必要です。

- ① インターネット上で出願者情報等を入力・登録する。
- ② 検定料を支払う。
- ③ 提出が必要な出願書類を郵送する。

注1) 出願は、ウェブでの情報登録および検定料の支払いだけでは手続き完了にはなりません。以下(2)の【出願書類等の郵送受付期間】内に必要な出願書類を郵送する必要があります。

注2) ウェブ出願システムでの出願者情報登録後、48時間以内に検定料を支払う必要があります。(最終期限2月3日(金)17:00)

(2) 出願期間及び検定料納入期間

【ウェブ出願システムによる情報登録及び検定料の納入期間】

令和5年1月23日(月)9:00～2月3日(金)17:00まで

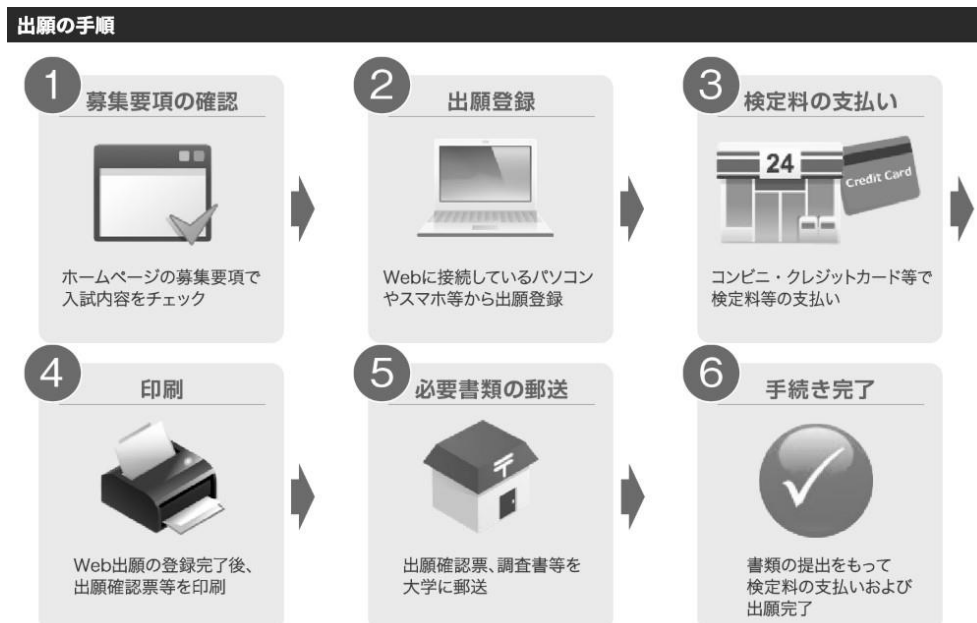
【出願書類等の郵送受付期間】

必ず書留速達郵便とし、次の期間に到着するように出願してください。

令和5年1月23日(月)～2月3日(金)17:00までに必着

ただし、出願期限後に到着したものは、2月1日(水)までの消印があり、かつ、書留速達郵便に限り受理します。

(3) 出願手続の流れ



「ウェブ出願システム」URL : <https://sak-sak.net/app/utippan>

(4) 検定料の支払方法

検定料： 17,000円

ウェブ出願システムで選択・入力した支払方法（クレジットカード、コンビニエンスストア、ペイジー）により、支払手続を行ってください。

出願登録完了から48時間以内に支払う必要があります（支払期限及び納入期間を過ぎてしまうと登録したデータは無効となります。その場合は出願手続きを最初からやり直してください（ただし、出願期間内に限ります）。）

検定料のほかに別途必要な手数料は出願者負担となります。

- ※1. 第1段階選抜不合格者並びに第2次学力試験出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては、13,000円を返還します。
- 2. 上記1の第1段階選抜不合格者は、令和5年3月末日までに検定料返還を申し出ることとし、その方法等については、以下の期間で閲覧可能となるウェブ合否照会にて確認してください。
合否照会閲覧可能期間：2月14日（火）15:00頃～3月9日（木）17:00まで
※「ウェブ合否照会」URL：<https://sak-sak.net/app/pass/utippan>
- 3. 上記1の出願無資格者は、令和5年3月末日までに検定料返還を申し出ることとし、その方法等については、2月15日（水）頃通知します。
- 4. 風水害等の災害により被災した入学志願者で、検定料の免除又は既に納付済みの検定料の返還を希望するものは、14ページを参照してください。
- 5. 上記1又は4の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は返還しません。

(5) 郵送での提出が必要な出願書類等

ウェブ出願システムでの情報登録・検定料の支払後、市販の角形2号封筒（横24cm×縦33.2cm）に下記の出願書類等を入れ、「一般選抜（前期日程）出願書類等送付用封筒貼り付けラベル」の枠内に必要事項を記入し、封筒表側にラベルを貼り付けて、必ず「書留速達郵便」で郵送してください。

※ 発送時には、郵便局窓口で「書留郵便物受領証」を受け取り、試験終了まで保管しておいてください。なお、出願書類等（書留速達郵便）の到着状況は、最寄りの郵便局窓口又は日本郵便ウェブサイト上で、「書留郵便物受領証」に記載の「お問合せ番号」により確認できます。

（参考 URL：<https://www.post.japanpost.jp/index.html>）

	出 願 書 類 等	摘 要
1	出願確認票(大学提出用)	ウェブ出願システムの出願登録完了画面からA4用紙に印刷（カラー・白黒どちらでも可）してください。 ※氏名は、大学入学共通テストの成績請求票と一致する字体・表記で入力してください。成績請求票に印字されている氏名が戸籍や住民票上の氏名と異なる字体であっても問題ありません。なお、他の出願書類等の氏名欄も、成績請求票と一致する字体・表記で記入してください。
2	大学入学共通テスト 成績請求票 (前国公立前期日程用)	大学入試センターから交付された令和5年度大学入学共通テスト成績請求票のうち、「前国公立前期日程用」を「出願確認票(大学提出用)」の所定欄に貼りつけてください。 ※これ以外の成績請求票を使用した場合には、出願書類等は受理しません。

	出 願 書 類 等	摘 要
3	調 査 書	<p>出身学校長が文部科学省の定めた様式により作成し、出身学校において厳封したものを提出してください。</p> <p>ただし、次の各号のいずれかに該当する者は、以下に掲げる書類をもって調査書に代えることができます。なお、成績関係の証明書は、全て発行者において厳封したものでなければなりません。</p> <p>ア) 平成29年3月以前の卒業で調査書が得られないもの …卒業証明書に加えて成績証明書又は単位修得証明書等 なお、成績証明書又は単位修得証明書等が提出できない場合は、学校長からの「発行できない旨の文書」を提出してください。</p> <p>イ) 高等専門学校第3学年修了者（見込みを含む。）及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者（見込みを含む。） …出身学校において文部科学省の定めた調査書に準じて作成したもの</p> <p>ウ) 高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）合格者 …合格成績証明書（合格証明書は不要）</p> <p>エ) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者（見込みを含む。）又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの、国際バカロレア資格取得者、文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者 …成績証明書及び卒業（修了）証明書</p> <p>オ) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格取得者 …一般的大学入学資格証明書及び成績評価証明書（写）</p> <p>カ) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格取得者 …バカロレア資格試験成績証明書</p> <p>キ) グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において、大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格取得者 …成績評価証明書</p> <p>ク) 本学の個別入学審査により入学資格を認められた者 …教育施設長が作成し、教育施設において厳封した調査書 なお、調査書が得られない場合には、成績を証明できる書類をもって調査書に代えることができます。</p>
4	前 期 日 程 (理 科 三 類) 志 願 理 由 書	<p>理科三類を志願する者のみ、ウェブ出願システムの出願登録完了画面からファイルをダウンロードし、A4用紙に印刷したものに必要事項を記入し、提出してください。</p> <p>「別紙1 前期日程（理科三類）志願理由書の記入例」（38ページ）を参照しながら、様式に所定の事項を記入してください。</p>

(6) 出願についての注意事項

- ① 出願書類等は，出願手続後いかなる理由があっても変更を認めません。
- ② 出願した科類は，いかなる理由があっても入学後の転科・転類を認めません。
- ③ 出願手続に不正の事実があった場合は，入学許可の後であってもこれを取り消します。
- ④ 出願書類等に不備がある場合には，受理しません。
- ⑤ 受理した出願書類等は，いかなる理由があっても返却しません。
- ⑥ 現に大学等に在籍している者であっても，本学の入学者選抜に出願し，受験することは差し支えありません。ただし，入学に当たっては，当該大学等の「卒業証明書」又は「退学証明書」の提出を求めます（詳細は，第2次学力試験当日に周知される「入学手続要領」で確認してください。）ので，留意してください。

2 選抜方法

入学者の選抜は、学力試験（大学入学共通テスト及び第2次学力試験）及び調査書によります。

入学志願者が各科類の募集人員に対して次の倍率に達した場合は、大学入学共通テストの成績により第1段階選抜を行い、第1段階選抜合格者に対して第2次学力試験を行います。

文科一類	約3.0倍	文科二類	約3.0倍	文科三類	約3.0倍
理科一類	約2.5倍	理科二類	約3.5倍	理科三類	約3.0倍

学力試験の成績は、大学入学共通テストの成績（配点110点：900点満点を110点に換算します。）と第2次学力試験の成績（配点440点）とを総合（550点満点）して算出します。

また、理科三類入学者の選抜においては、上記に加え、面接試験の結果を含めて総合的に判定し、将来、医療や医学研究に従事するのにふさわしい資質を持った受験者を、合格者とします。したがって、学力試験の得点にかかわらず不合格となることがあります。なお、面接試験では、受験者の人間的成熟度、医学部への適性、コミュニケーション能力等を評価します。

なお、配点等についての詳細は、別紙2（39～40ページ）のとおりです。

(1) 大学入学共通テスト

令和5年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目は次のとおりです。

1科目でも受験しなかった場合には、第2次学力試験の受験を認めません。

【文科各類】・・・5教科8科目又は6教科8科目

教科	科目	科目選択の方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	左の4科目のうちから2科目を選択
公民	『倫理, 政治・経済』	
数学	『数学I・数学A』	必須
	『数学II・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	左の3科目のうちから1科目を選択 ただし、『簿記・会計』, 『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者だけです。
理科	「物理基礎」（「物理」） 「化学基礎」（「化学」） 「生物基礎」（「生物」） 「地学基礎」（「地学」）	左の基礎を付した4科目のうちから2科目を選択 ただし、「基礎を付していない科目」を2科目選択した場合には、「基礎を付した科目」を選択したものとみなします。（注1）

外国語	『英語』 ^(注2) 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の5科目のうちから1科目を選択
-----	---	------------------

- (注1) (1) 「基礎を付した科目」とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指します。
- (2) 「基礎を付していない科目」とは、物理、化学、生物、地学を指します。
- (3) 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の4科目の中から2科目と、物理、化学、生物、地学の4科目の中から1科目を選択した場合には、基礎を付した2科目を利用します。
- (4) 物理、化学、生物、地学の4科目の中から2科目選択した場合には、合計得点(200点満点)を100点満点に換算して利用します。
- (注2) 外国語の『英語』は「リーディング」100点と「リスニング」100点、計200点満点を「リーディング」140点満点、「リスニング」60点満点に換算して利用します。(※)
- (※) 聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は、「リーディング」100点満点の成績を200点満点に換算し、『英語』以外の外国語を選択した者は、筆記(200点満点)の成績を利用します。

【理科各類】 (5教科7科目)

教科	科目	科目選択の方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	左の4科目のうちから1科目を選択 なお、地理歴史及び公民の試験時間において2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定に利用します。(注1)
公民	『倫理、政治・経済』	
数学	『数学Ⅰ・数学A』 『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	必須 左の3科目のうちから1科目を選択 ただし、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者だけです。
理科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	左の4科目のうちから2科目を選択
外国語	『英語』 ^(注2) 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の5科目のうちから1科目を選択

- (注1) 「地理歴史、公民」の試験時間に2科目を受験した場合において、前半の60分間で解答した科目を**第1解答科目**、後半の60分間で解答した科目を**第2解答科目**といいます。
(詳細は、大学入試センターウェブサイト<https://www.dnc.ac.jp/>等を参照してください。)

なお、第1解答科目で本学が指定していない科目を受験した場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも、第2次学力試験の受験を認めません。

(注2) 外国語の『英語』は「リーディング」100点と「リスニング」100点、計200点満点を「リーディング」140点満点、「リスニング」60点満点に換算して利用します。(※)

(※) 聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は、「リーディング」100点満点の成績を200点満点に換算し、『英語』以外の外国語を選択した者は、筆記(200点満点)の成績を利用します。

(2) 第2次学力試験

① 期日・時間・配点等

【文科各類】

科 類	試 験 日	時 間	教 科	配 点
文科一類	令和5年 2月25日(土)	9:30～12:00 (150分)	国 語	120
		14:00～15:40 (100分)	数 学	80
文科二類	令和5年 2月26日(日)	9:30～12:00 (150分)	地理歴史	120
		14:00～16:00 ※(120分)	外 国 語	120
文科三類				(計 440)

※ 外国語（英語）試験の一部分に聞き取り試験を行います。（30分程度）

【理科各類】

科 類	試 験 日	時 間	教 科 等	配 点
理科一類	令和5年 2月25日(土)	9:30～11:10 (100分)	国 語	80
		14:00～16:30 (150分)	数 学	120
理科二類	令和5年 2月26日(日)	9:30～12:00 (150分)	理 科	120
		14:00～16:00 ※(120分)	外 国 語	120
理科三類	令和5年 2月27日(月)	9:00～17:00頃	面 接	注
				(計 440)

※ 外国語（英語）試験の一部分に聞き取り試験を行います。（30分程度）

注 理科三類の面接は、総合判定の判断資料とします。

理科三類入学者の選抜においては、学力試験（大学入学共通テスト及び第2次学力試験）及び調査書に加え、面接試験の結果を含めて総合的に判定し、将来、医療や医学研究に従事するのにふさわしい資質を持った受験者を、合格者とします。したがって、学力試験の得点にかかわらず不合格となることがあります。なお、面接試験では、受験者の人間的成熟度、医学部への適性、コミュニケーション能力等を評価します。

② 出題教科・科目等

下表で指定する全ての教科・科目を受験しなければなりません。

【文科各類】

科 類	教 科	科 目
文科一類 文科二類 文科三類	国 語	国語総合, 国語表現, 現代文B, 古典B
	数 学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B (注1)
	地 理 歴 史	日本史B, 世界史B, 地理Bの3科目のうち, あらかじめ出願の際に届け出た2科目
	外 国 語	(1) 英語 (コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ) ※ 一部マークシートに解答する問題があります。 また, 聞き取り試験 (30分程度) を行います。 (2) ドイツ語 (3) フランス語 (4) 中国語 のうち, あらかじめ出願の際に届け出た1外国語 (注2) ただし, 英語の選択者に限り, 英語の問題の一部分に代えて, 他の外国語 (ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国朝鮮語) のうちから一つの外国語を試験場において選択することができます。なお, ここで選択できる外国語のうち, ドイツ語, フランス語, 中国語の問題は, 出願時に当該外国語を選択した者が解答する問題の一部分と同じものです。
<p>(注1) 数学の出題範囲は以下のとおりです。 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Aは全範囲から, 数学Bは「数列」, 「ベクトル」から出題します。</p> <p>(注2) 「トライリンガル・プログラム (TLP)」の受講を希望する者は, 31 ページを参照してください。</p>		

【理科各類】

科 類	教 科 等	科 目 等
理科一類 理科二類 理科三類	国 語	国語総合, 国語表現
	数 学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 数学A, 数学B (注1)
	理 科	「物理基礎・物理」, 「化学基礎・化学」, 「生物基礎・生物」, 「地学基礎・地学」の4科目のうち, あらかじめ出願の際に届け出た2科目 (注2)
	外 国 語	(1) 英語 (コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ) ※ 一部マークシートに解答する問題があります。 また, 聞き取り試験 (30分程度) を行います。 (2) ドイツ語 (3) フランス語 (4) 中国語 のうち, あらかじめ出願の際に届け出た1外国語 (注3) ただし, 英語の選択者に限り, 英語の問題の一部分に代えて, 他の外国語 (ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国朝鮮語) のうちから一つの外国語を試験場において選択することができます。なお, ここで選択できる外国語のうち, ドイツ語, フランス語, 中国語の問題は, 出願時に当該外国語を選択した者が解答する問題の一部分と同じものです。
理科三類	面 接	個人面接 (注4)

(注1) 数学の出題範囲は次のとおりです。
数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 数学Aは全範囲から出題します。数学Bは「数列」, 「ベクトル」から出題します。

(注2) 理科の出題範囲は次のとおりです。
「物理基礎・物理」は物理基礎, 物理の全範囲から出題します。
「化学基礎・化学」は化学基礎, 化学の全範囲から出題します。
「生物基礎・生物」は生物基礎, 生物の全範囲から出題します。
「地学基礎・地学」は地学基礎, 地学の全範囲から出題します。

なお, 入学後, 理科各類の必修科目には, 数理科学 (数学), 物質科学 (物理, 化学) 及び生命科学 (生物) が含まれ, 数理科学では, 数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 数学A, 数学Bを入学までに学習していることを前提とした講義がなされます。

(注3) 「トライリンガル・プログラム (TLP)」の受講を希望する者は, 31ページを参照してください。

(注4) 複数の面接員による10分間程度の面接を行い, その評価を参考にして, 場合によっては, 2次面接を行うことがあります。

3 試験場

科 類	試 験 場	所 在 地
文科一類 文科二類 文科三類	東京大学 教養学部	東京都目黒区駒場3丁目8番1号
理科一類 理科二類 理科三類	東京大学 法・文・経済・教育 薬・医・理・工・農の 各学部	東京都文京区本郷7丁目3番1号

※ 試験場区域内は全面禁煙

4 第1段階選抜合格者発表等

(1) 第1段階選抜合格者発表

令和5年2月14日（火）15：00ごろ、本学ウェブサイトにて、第1段階選抜合格者の大学入学共通テスト「試験場コード」及び「受験番号」を掲載〔2月20日（月）12：00まで〕します。

上記と同日時からウェブ合否照会にて合否確認をすることも可能です。

※「ウェブ合否照会」URL：<https://sak-sak.net/app/pass/utippan>

なお、電話等による合否の問合せには、一切応じません。

本学ウェブサイト

URL <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/20230214.html>

- ※ 1. 本学ウェブサイトのトップページを経由してのアクセスは、つながりにくくなるのが予想されるので、上記URLに直接アクセスしてください。
- 2. 合格者発表直後は、ウェブサイトへの接続に時間がかかることが予想されるので、その場合は、しばらく経ってからアクセスしてください。

(2) 受験票等の印刷

- ① 第1段階選抜の合格者については、2月14日（火）15：00頃からウェブ出願システムにて「東京大学第2次学力試験受験票（前期日程）」及び「受験者心得（前期日程）」のPDFファイルがダウンロード可能となります。

試験前日までに「東京大学第2次学力試験受験票（前期日程）」を含む全てのPDFファイルを紙媒体で印刷（A4普通紙。カラー・白黒どちらでも可ですが、顔写真がはっきりわかるように印刷してください。）しておき、試験当日に必ず持参してください。

※「ウェブ出願システム」URL：<https://sak-sak.net/app/utippan>

- ② 「大学入学共通テスト受験票」及び「東京大学第2次学力試験受験票（前期日程）」は、第2次学力試験当日及び入学手続（28ページの7参照）の際に必要となりますので、紛失、汚損等のないよう大切に保管してください。

(3) 第1段階選抜不合格の検定料返還

第1段階選抜不合格者は、請求により、検定料の一部返還が可能です。

令和5年3月末日までに申し出ることとし、その方法等については、以下の期間にURLにて確認してください。

合否照会閲覧可能期間：2月14日（火）15：00頃～3月9日（木）17：00まで

※「ウェブ合否照会」URL：<https://sak-sak.net/app/pass/utippan>

5 合格者発表

令和5年3月10日（金）12：00ごろ、合格者の第2次学力試験受験番号を本学ウェブサイトに掲載〔3月18日（土）12：00まで〕します。

以下の期間に、ウェブ合否照会にて合否確認をすることも可能です。

合否照会閲覧可能期間：3月10日（金）12:00頃～3月31日（金）17:00まで

※「ウェブ合否照会」URL：<https://sak-sak.net/app/pass/utippan>

なお、電話等による合否の問合せには、一切応じません。

本学ウェブサイト URL <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/20230310.html>

（注）1. 本学ウェブサイトのトップページを経由してのアクセスは、つながりにく

くなるのが予想されるので、上記URLに直接アクセスしてください。

2. 合格者発表直後は、ウェブサイトへの接続に時間がかかるのが予想されるので、その場合は、しばらく経ってからアクセスしてください。

また、合格者については、以下の期間に、ウェブ出願システムから「合格通知書」のPDFファイルがダウンロード可能となります。

なお、この「合格通知書」にウェブ入学手続システムへのログイン情報が表示されますので、以下の期間内にURLのサイトから必ずダウンロードしてください。

ダウンロード可能期間：3月10日（金）12:00頃～3月13日（月）12:00まで

※「ウェブ出願システム」URL：<https://sak-sak.net/app/utippan>

6 資料等の発表

(1) 学力試験における科別最高点・最低点及び平均点

合格者の学力試験における科別最高点・最低点及び平均点は、合格者発表時に本学ウェブサイトに掲載します。

また、第1段階選抜合格者の最高点・最低点及び平均点は、本学ウェブサイトに掲載します。

なお、電話等による問合せには、一切応じません。

① 第1段階選抜合格者の最高点・最低点及び平均点

本学ウェブサイト URL <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/20230214.html>

② 第2次学力試験合格者の科別最高点・最低点及び平均点

本学ウェブサイト URL <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/20230310.html>

(2) 個人別成績の通知

以下の期間に、ウェブ成績照会にて個人別成績照会が可能となります。

照会可能期間：4月3日（月）9:00頃～4月28日（金）17:00まで

※「ウェブ成績照会」URL：<https://sak-sak.net/app/pass/utippan>

なお、照会可能な成績は下記のとおりです。

① 不合格者

第2次学力試験科目別得点・総得点及び順位（段階別）

② 合格者

第2次学力試験科目別得点・総得点

(3) 面接試験の評価

面接試験の評価については、開示しません。

7 入学手続

(1) 入学手続方法

一般選抜では、ウェブ入学手続システムにて実施しています。以下①～④の手続きが必要です。

- ① 本要項の「5 合格者発表」に記載されている「合格通知書」から入学手続システムへのログイン情報を入手する。
- ② インターネット上で入学者情報等を入力する。
- ③ 入学料を支払う。
- ④ 提出が必要な入学手続書類を郵送する。

詳細については、第2次学力試験当日に周知される「入学手続要領」によりお知らせします。

なお、本学に入学手続を行った者は、これを取り消して他の国公立大学・学部に入学者手続を行うことができないので注意してください。

注) 入学手続は、ウェブでの情報登録および入学料の支払いだけでは手続き完了にはなりません。以下(2)の【入学手続書類の郵送受付期間】内に必要な入学手続書類を郵送する必要があります。

(2) 入学手続期間

入学手続は下記の期間内とし、期間内に入学手続を行わなかった者は、入学を辞退した者として取り扱い、これ以降の入学手続を認めません。

【ウェブ入学手続システム（前半）による情報登録期間】

令和5年3月10日（金）正午頃 ～ 3月13日（月）正午まで

【ウェブ入学手続システム（後半）による情報登録期間】

令和5年3月10日（金）正午頃 ～ 3月13日（月）正午まで

※前半と後半でURLが異なります。詳しくは「入学手続要領」にてお知らせします。

【入学料の納入期間】

令和5年3月10日（金）正午頃 ～ 3月15日（水）17:00まで

【入学手続書類の郵送受付期間】

令和5年3月11日（土）～ 3月15日（水）17:00までに必着

[3月15日（水）17:00以降に到着したものは、3月14日（火）までの消印があり、かつ書留速達郵便に限り受理します。]

(3) 郵送での提出が必要な入学手続書類（予定）

- ① 入学手続情報確認票（大学提出用）
- ② 大学入学共通テスト受験票
- ③ 東京大学第2次学力試験受験票（前期日程）
- ④ あて名ラベル
- ⑤ 入学料・授業料免除及び徴収猶予事前申請書（希望する者のみ）
- ⑥ FLY Program 事前申請書（希望する者のみ）

(注) 1 上記の提出書類等は予定であり、詳細は第2次学力試験当日に周知される「入学手続要領」で確認してください。

2 提出書類等は、書留速達により一括して郵送してください。

(4) 入学手続完了者への書類の送付

入学手続が完了した者には、下記の書類を入試事務室より郵送（簡易書留）します。

- ① 大学入学共通テスト受験票（入学手続きが完了したことを示す日付印を押印したもの）
- ② 東京大学第2次学力試験受験票（前期日程）
- ③ 諸手続書類一式

〔納付金に関する注意事項〕

(1) 下記の者は、入学手続き時に入学料の納付及び納付したことを証明する書類の提出は不要です。

- ・「**入学料**」の免除を申請する者（下記①及び②の者を含む）
 - ① 日本学生支援機構「**給付型**」奨学金の採用候補者
 - ② 入学後（4月）に日本学生支援機構「**給付型**」奨学金を申請する者
- ・「**入学料**」の徴収猶予を申請する者

詳細は、33ページ「(2) 入学料及び授業料の免除」、33ページ「(3) 入学料及び授業料の徴収猶予」を参照してください。

(2) 納付金の返還

入学料：いかなる理由があっても返還しません。

Ⅷ 追加合格

追加合格を行う場合には、令和5年3月28日（火）9:00ごろ、本学ウェブサイト追加合格者数を掲載〔4月1日（土）12:00まで〕します。行わない場合にも、その旨を掲載します。

追加合格該当者には、3月28日（火）に通知するとともに、入学手続方法等の詳細については、別途連絡します。

他の国公立大学・学部に入學手続を完了した者は、それを取り消して、本学の追加合格の入學手続を行うことはできません。

本学の前期日程の合格者で、入学手続期間中に入学手続を行わなかった者は追加合格の対象としません。

なお、電話等による問合せには、一切応じません。

本学ウェブサイト URL <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/20230328.html>

Ⅸ 健康診断及び就学に関する情報提供書

(1) 健康診断

東京大学での健康な学生生活を過ごせるよう、所定の入学手続を完了した者全員に、新入生健康診断を実施します。

入学後の修学指導及び健康支援に必要となり、また必修科目である身体運動・健康科学実習の履修にも影響することから、必ず全員が受診してください。

健康診断で異常が認められた場合には必要な措置がとられます。

① 日程

区分	実施日程
健康診断	3月下旬から4月初旬に実施予定です。

(注) 詳細は、第2次学力試験当日に周知される「入学手続要領」にて確認してください。

② 実施場所

東京大学駒場Ⅰキャンパス
(東京都目黒区駒場3丁目8番1号)

③ 健康診断に関する問合せ先 (合格者発表後に限ります)

東京大学保健・健康推進本部駒場地区 電話番号 03-5454-6180

(2) 就学に関する情報提供書

学生生活における安全を確保し、滞りなく大学生活を始めるために、就学に関して特別な配慮が必要な方は、指定の書式を必ず記入し(東京大学保健・健康推進本部ホームページよりダウンロード)、提出してください。詳細については、「入学手続要領」及び「諸手続書類」中の「新入生健康診断に必要な物(一式)」を参照してください。

(注意) ワクチンで予防できる疾患については、積極的に予防接種を受けることを検討してください。麻疹(はしか)、風疹、水ぼうそう(水痘)、おたふくかぜの予防接種を2回受けたことが母子健康手帳などの記録で確認できない場合には、入学までに2回接種

が完了するようにしてください。それ以外に接種を受けていない定期接種についても接種を完了するよう努めてください。任意接種のワクチンについても、ワクチンで予防できる疾患については、入学後の生活や活動内容に応じて積極的に検討してください。（宿舎等で集団生活を送る場合の髄膜炎ワクチンなど。）

X 諸 手 続

東京大学駒場キャンパスにおいて、書類の提出などの諸手続を次の日程で行います。

諸手続の日程 3月28日（火）理科各類（予定）

3月29日（水）文科各類（予定）

なお、諸手続に関しては、下記に問い合わせてください。

東京大学教養学部等教務課 電話番号 03-5454-6043

XI 入学後の外国語の履修について

本学では、教養学部前期課程（1・2年次）において、二つの外国語を必修として履修することになります。

必修として履修する外国語は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・韓国朝鮮語・イタリア語・日本語の中から選択できます。ただし、日本語の履修は外国人留学生〔日本政府（文部科学省）奨学金留学生、外国政府派遣留学生、外国学校卒業学生特別選考第1種及び公益財団法人日本台湾交流協会学部留学生〕に限られます。

履修は、既修の外国語と初修の外国語の組合せを標準とします。詳細については、試験当日に周知される「入学手続要領」の外国語の履修手続の項を参照してください。

XII トライリンガル・プログラム（TLP）の受講に当たっての注意事項について

入学試験（前期日程）の英語成績上位者向けに、「トライリンガル・プログラム（TLP）」が用意されています。これは、英語と日本語を含む3言語を使いこなせる人材を養成するものであり、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語で開講されます。TLPの履修を希望する場合は、前期日程試験における外国語科目の**全ての設問で英語を選択しなければなりません**。希望者は十分に注意してください。TLPに関する詳細は、次のウェブページを参照してください。

<http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/>

XIII 後期課程への進学について

各学部がそれぞれの科類から受け入れる進学者の数（受入予定数）は下表のようになっています。進学者の受入れは、法学部・経済学部・薬学部では学部を単位として、その他の学部では、学科・部門・分科、専修課程、コースなどを単位として行われます。

受入単位毎に、それぞれの科類から何人を受け入れるかが決まっており、その定数は「指定科類」枠と呼ばれています。また、受入単位によっては、「指定科類」枠とは別に、科類を指定せずに全ての科類から進学者を受け入れる定数をもっており、その定数は「全科類」枠と呼ばれます。「全科類」枠は、入学後の進路選択の幅をさらに広げることを意図したのですが、必ずしも全ての受入単位に「全科類」枠が用意されている訳ではありません。下表の受入予定数は、受入単位毎の「指定科類」枠と「全科類」枠を学部別に総計したものです。

進学者の受入れは、学生の志望や成績などに基づいて決定されます。各受入単位がどのような指標に基づいて進学内定者を決定するか等の詳細については、入学後に配付される資料で確認してください。また、どのような受入単位があるのかやその単位の受入予定数、進学内定のための指標などについて、入学後に詳しい情報を得ることができますが、出願の際には、各科類から主として進学できる後期課程の学部・学科を参考にして科類を選択してください。

各学部進学者受入予定数

学部	定数	指 定 科 類								全科類
		文科一類	文科二類	文科三類	文科各類	理科一類	理科二類	理科三類	理科各類	
法	420人	357	2						6	55
経済	340人		270						10	60
文	367人			266						101
教育	100人			56					4	40
教養	187人	39		52	16				61	19
英語コース	10人									10
工	984人					805	73			106
理	308人					128	10		70	100
農	304人				12		111		109	67
						5 (理科一・三類)				
薬	85人						32		29	8
						16 (理科一・三類)				
医	159人※						8	105	18	28

※・・・医学科と健康総合科学科の合計数であり、健康総合科学科の受入予定数は「理科各類」枠の18人と「全科類」枠28人中の26人の計44人です。

XIV 学生生活案内

(1) 授業料

授業料 年額 535,800円（予定額）

（注）授業料の納付については、試験当日に周知される「入学手続要領」を参照してください。

上記納付金額は、予定額であり、入学時又は在学時に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額（授業料）が適用されます。

(2) 入学料及び授業料の免除

① 高等教育の修学支援新制度による免除制度

「高等教育の修学支援新制度」は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生に対し「日本学生支援機構による給付型奨学金の支給」と「大学による入学料・授業料の免除」を合わせて行う国による経済的な支援制度です。詳細は下記ウェブサイトを参照してください。

<文部科学省 高等教育の修学支援新制度>

<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>

<日本学生支援機構 給付奨学金（返済不要）>

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kyufu/index.html>

修学支援新制度による免除を受けるには、日本学生支援機構の**給付**奨学生であることが必要です。

高等学校在学中に日本学生支援機構の「**給付型**」奨学金へ申請し、採用候補者となっている者は、免除の候補者にもなるため、試験当日に周知される「入学手続要領」に従い、入学料・授業料の免除を必ず申請してください。

新入生で入学後に修学支援新制度による免除を希望する者は、上記文部科学省ウェブサイトにて支援の対象者を確認した上で、試験当日に周知される「入学手続要領」に従い、入学料・授業料の免除を申請してください。また、入学後、指定された期間内（4月上旬）に日本学生支援機構の「**給付型**」奨学金へも必ず申請してください。

なお、入学料・授業料は、給付型奨学金の支援区分に応じた額が本制度により免除となり、授業料については、本学が差額を補填することで、区分を問わず全額を免除します。

② 東京大学による免除制度

入学料は、入学前1年以内に、学資負担者が死亡、風水害等で被災した者及び生活保護世帯について、選考の上、全額又は半額を免除する制度があります。

授業料は、「**高等教育の修学支援新制度**」の**対象者に該当しない者**で、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、選考の上、全額又は半額を免除する制度があります。

※ 新入生は、入学試験の合格をもって学業優秀の基準に適格するものとみなします。手続きの詳細は、試験当日に周知される「入学手続要領」を参照してください。

(3) 入学料及び授業料の徴収猶予

入学料は、経済的理由等により納付期限（振込期間）までに納付することが困難な者について、選考の上、徴収を8月末まで猶予する制度があります。

授業料は、経済的理由等により納付期限（口座振替日）までに納付することが困難である者について、選考の上、授業料の延納（前期は9月、後期は3月に銀行口座から引落し）又は分納（授業料の月割額が毎月銀行口座から引落し）を認める制度があります。手続きの詳細は、試験当日に周知される「入学手続要領」を参照してください。

※ 授業料の免除・徴収猶予，並びに日本学生支援機構奨学金の手続きの詳細については、
教養学部ウェブサイトを通じてお知らせしますので，以下のURLを参照してください。

・ 授業料の免除・徴収猶予

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/campuslife/tuitionwaiver/>

・ 日本学生支援機構奨学金

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/campuslife/scholarship/>

(4) 奨学金

奨学金は大きく分けて，日本学生支援機構，地方公共団体及び民間団体のものがあります。

応募の詳細については，教養学部ウェブサイトを通じてお知らせしますので，以下のURLを参照してください。

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/campuslife/scholarship/>

(5) 宿 舎

新入生が入居できる本学の宿舎は次のとおりです。

① 三鷹国際学生宿舎

名 称	定員	所 在 地	通学所要時間	寄宿料月額
三鷹国際学生宿舎 (男子・女子)	605人	三鷹市新川6丁目22番20号	45 ～ 60分	4,700円

ア 通学所要時間は，東京都目黒区駒場にある教養学部キャンパスへの所要時間です。

イ 定員欄に示した数字は，総定員であり，新入生の募集数は，男子140人前後，女子30人前後です。

なお，総定員の約3割は留学生用にあてられています。

ウ 三鷹国際学生宿舎は，平成5年度から平成7年度にかけて建設された全室個室の学生宿舎で，居室の広さは13㎡。各居室にはエアコン，トイレ・シャワーユニット，ミニキッチン（IH式），机，椅子，クローゼット，ベッド（マットレス・寝具なし）などが備えつけられています。

食堂は付設されていません。

エ 主に教養学部前期課程学生（1・2年生）のための宿舎で，入居期間は原則として2年間です。

オ 寄宿料の他に共益費や光熱水費などを合わせると，月額おおむね12,000円前後が目安です。

また，入居時に現状回復費として60,000円を支払っていただきます。

カ 三鷹国際学生宿舎への入居選考基準は，家計状況と自宅からの通学時間です。自宅からの通学時間が1時間30分以内の者は，申請資格がありません。

キ 三鷹国際学生宿舎入居者募集要項は，以下URLを参照ください。

詳細は以下を参照してください。

三鷹国際学生宿舎	担 当 係	教養学部等学生支援課厚生チーム 電話番号：03-5454-6077，6078 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/campuslife/housing/dormitory/mitaka/about/
----------	-------	--

② 目白台インターナショナル・ビレッジ

名 称	居室数	所 在 地	通学所要時間(※)	施設使用料
目白台インターナショナル・ビレッジ	855室	東京都文京区目白台3丁目28番6号	駒場キャンパス 電車34分 本郷キャンパス 電車5分 柏キャンパス 電車46分	居室タイプにより異なります

※目安となります。詳しくは、各自鉄道会社にご確認下さい。

- ア 各キャンパスまでの通学所要時間は、それぞれ下記鉄道駅からの所要時間です。
駒場キャンパス：護国寺駅／本郷キャンパス：茗荷谷駅／柏キャンパス：茗荷谷駅
- イ 目白台インターナショナル・ビレッジは、令和元年9月に開寮したシェア型・独立型個室からなる宿舎で、居室タイプにより広さが約10㎡～42㎡と異なり、各居室には基本設備としてエアコン、机、椅子、ベッド（マットレスカバー別料金、寝具レンタル別料金）、冷蔵庫、照明器具、カーテンなどが備えつけられています。また、女子専用フロアも設けています。
- 加え、ビレッジ内には、レストランとコンビニエンスストアが併設されています。
- ウ 留学生、日本人学生、外国人研究者の方々のための宿舎で、1年毎の更新申請により更新が許可されれば、学生については入居時の学年にかかる各課程の修業年限満了日、研究者又は研究生については研究期間満了日まで入居することも可能です（別途更新料のお支払いが必要）。
- なお、独立型住戸に関しては、研究者の方の入居を優先させて頂く場合があります。
- エ 上記居室とは別に、バリアフリー対応室等があります。
- オ 目白台インターナショナル・ビレッジ入居者募集案内は、ハウジングオフィスのウェブサイトに掲載いたします。
- カ 募集については、東京大学ハウジングオフィスのウェブサイトをご確認ください。
詳細は以下を参照してください。

目白台インターナショナル・ビレッジ	担当係	資産活用推進部資産企画課ハウジングオフィス E-mail:housing-office.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/housing-office/ja/housing/shukusha/mejirodai.html
-------------------	-----	---

(6) アパート・マンション等

東京大学消費生活協同組合（東大生協）では、新入生用のアパート・マンション等の情報として、家主からの直接紹介物件（仲介手数料無料）と東大生協提携不動産会社の仲介物件（仲介手数料有料）の2種類を取り扱っています。

東大生協主催の「住まい探し相談会」を、第2次学力試験実施期間及び合格者発表日に開催予定です。日程や会場の詳細については、以下のウェブサイトにて12月中旬ごろから随時発信していきます。

東大生協 受験生・新入生応援サイト

<https://www.utcoop.or.jp/start/>



(7) 女子学生向けの住まい支援

本学に入学する女子学生のうち、自宅からの通学が困難な人のために、キャンパス至近の民間賃貸物件及び本学目白台インターナショナル・ビレッジに居室を用意し、家賃支援を行います。詳細は、本学ウェブサイト等で令和5年1月上旬ごろにご案内する予定です。

(8) 総合窓口

総合窓口では、学生本人、教職員、ご家族の方の困りごとについて、職員、精神科医、臨床心理士／公認心理師がお話しをうかがいます。

種類を問わず様々な疑問やお困り事などをうかがい、必要に応じて職種の専門性を生かしたチームで対応し、問題解決に向けての提案や適切な相談施設へご紹介いたします。予約不要ですのでお気軽にご連絡ください。

(9) 健康に関わる相談・健康診断

本学には、学生の健康管理のため、駒場、本郷、柏の各キャンパスに保健・健康推進本部の保健センターがあり、健康で充実した学生生活を送れるよう定期健康診断をはじめ、内科、精神科、歯科（本郷・駒場のみ）、耳鼻咽喉科（本郷のみ）、整形外科（駒場のみ）、皮膚科（駒場のみ）の担当の医師・保健師等が診療、健康相談等に当たっています。

(10) 学生相談所

駒場、本郷、柏の各キャンパスに、学業、進路、対人関係、性格、修学上の様々なトラブル等、さまざまな心理的な問題や悩みの相談に応じるため、学生相談所が設けられており、専門のカウンセラーが相談活動にあたっています。

(11) コミュニケーション・サポートルーム

人とのコミュニケーションに関係すること、注意力の問題、他の人と違う考え方・感じ方、さらに、いわゆる発達障害（自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症など）に関する相談にも幅広く応じています。

(12) ピアサポートルーム

ピアサポートとは、所定の研修を受けた学生がピアサポーターとして、学生同士の支えあいと自主的成長を促進する活動です。ピアサポートルームは、学生ボランティアのピアサポーターを組織し、学生の支え合いのための様々な支援活動を行っています。

(13) 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、学生が所定の教育研究活動中及び通学中に被った事故等による身体の傷害に対し、保険金を支払うものです。

本学では、全ての学生が安心して大学生活を送れるよう、大学が保険料を負担して在籍学生を全員加入させています。（2,000万円コース、通学特約付き）

参考ウェブサイト https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/info-services/h06_04.html

(14) 障害のある学生への支援

バリアフリー支援室は、「東京大学憲章」の精神に基づく全学のバリアフリー化推進のための専門部署です。障害のある学生が円滑に教育を受けることができるよう、学生の所属する学部・研究科が行う支援のコーディネートをしています。

受験上の配慮に関することは、本要項の「V 障害等のある入学志願者について」(13ページ)を参照してください。合格後は教養学部等教務課前期課程チーム又はバリアフリー支援室駒場支所に直接相談してください。

支援の詳細については、東京大学バリアフリー支援室のウェブサイトを参照してください。

問合せ先

【駒場支所】

駒場 I キャンパス 教養学部 8 号館 111 号室 (目黒区駒場3-8-1)

【本郷支所】

本郷キャンパス 学生支援センター モール階 (MF) (文京区本郷7-3-1)

バリアフリー支援室ウェブサイト <http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>

問合せ用 E-mail: spds-staff.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

(15) 初年次長期自主活動プログラム

【FLY Program (Freshers' Leave Year Program)】

このプログラムは、入学直後の学部学生が、通常の大学生生活の開始に先立ち、社会における主体的な活動を長期間体験することを通じて、従来の意識・価値観を相対化しつつ、大学での学びの意義・目的を自ら確認・発見できる機会を提供することを目的としています。学生本人が主体的に活動計画を企画立案し、「初年次特別休学」制度により1年間休学して自主活動を行う制度で、大学では、学生からの相談を受け付けるとともに、適切な助言及び情報提供を行います。授業料を免除するほか、経済的支援を行う場合があります。

プログラムの詳細、応募手続きについては、下記のウェブサイト、試験当日に周知される「入学手続要領」を参照してください。

FLY Programウェブサイト <https://www.fly.c.u-tokyo.ac.jp/>

問合せ先

本部社会連携推進課体験活動推進チーム E-mail: fly-program.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

◎前期日程（理科三類）志願理由書の記入例

前期日程（理科三類）志願理由書（電子ファイル）をダウンロードし、A4用紙に印刷する必要があります。

氏名は、「カタカナ」と「漢字」で丁寧に記入してください。
氏名は、入学志願票に記入した氏名と同じ文字を用いて記入してください。

東京大学

前期日程（理科三類）志願理由書

男又は女を○で囲んでください。

受験番号	※	志願科類	理科三類
フリガナ 志願者氏名	ホニコウ タロウ 本郷太郎	性別	（男） ・ 女 生年月日 昭和 （平成）17年 1月 1日

※ 受験番号欄には何も記入しないでください。

- 理科三類を志願する理由及び自己アピール等を、以下の枠（全200マス：1文字につき1マス）に、200字以内で、志願者本人の手書き（横書き）で記入してください。句読点は1文字として記入してください。
- 黒ボールペンで丁寧に記入してください。
- 書き間違い等の場合は、二重線を引いてマスの余白に記入してください。
- 以下の枠外に記載された文言は一切読みません。

「昭和、平成」のいずれかを○で囲み、生年月日を記入してください。

【志願理由及び自己アピール等記入欄】

[20字×10行]

【賞罰等記入欄】

※特記すべき事項があれば適宜記入してください。
※高校卒業後に、大学等の在学歴や職歴がある場合は、この欄に記入してください。

令和5年度東京大学入学者選抜（一般選抜）前期日程試験の実施教科・科目等について〔文科各類〕

学部・学科等名 及び入学定員等 〔令和4年度 志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等（第2次学力試験）			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等						その他の 選抜方法等		
		注1	注2	注3	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学		理科	外国語
文科一類 3.2 401人 前期 401 その他 若干	前期 2月25・ 26日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿・会, 情報から1 物基(物), 化基(化), 生基(生), 地学基(地学)から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目又は6教科8科目〕	国 数 地歴 外	国語総合・国語表現・現代文B・古典B 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B 日B, 世B, 地理Bから2 英(コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ), 独, 仏, 中から1	約3.0倍	共通テスト	(200)	(200)		(200)	(100)	(200)	110 (900)	帰国生徒 外国人 追加合格
							個別学力検査	120	120		80		120	440	
文科二類 3.1 353人 前期 353 その他 若干	前期 2月25・ 26日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿・会, 情報から1 物基(物), 化基(化), 生基(生), 地学基(地学)から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目又は6教科8科目〕	国 数 地歴 外	国語総合・国語表現・現代文B・古典B 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B 日B, 世B, 地理Bから2 英(コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ), 独, 仏, 中から1	約3.0倍	共通テスト	(200)	(200)		(200)	(100)	(200)	110 (900)	帰国生徒 外国人 追加合格
							個別学力検査	120	120		80		120	440	
文科三類 3.2 469人 前期 469 その他 若干	前期 2月25・ 26日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿・会, 情報から1 物基(物), 化基(化), 生基(生), 地学基(地学)から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目又は6教科8科目〕	国 数 地歴 外	国語総合・国語表現・現代文B・古典B 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B 日B, 世B, 地理Bから2 英(コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ), 独, 仏, 中から1	約3.0倍	共通テスト	(200)	(200)		(200)	(100)	(200)	110 (900)	帰国生徒 外国人 追加合格
							個別学力検査	120	120		80		120	440	

注1【大学入学共通テストの利用教科・科目名】欄

(1) 数学において、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者だけです。

(2) 理科において、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2科目を選択した場合には、それぞれ「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」を選択したものとみなします。

(3) 理科において、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2科目と、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1科目を選択した場合には、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2科目を合否判定に利用します。

注2【個別学力検査等】欄

(1) 数学Bの出題範囲は次のとおりです。

数学B(「数列」、「ベクトル」)

(2) 英語試験の一部に聞き取り試験を行います。

注3【大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等】欄

(1) 第1段階選抜を行う場合には、表中に掲げる大学入学共通テストの各教科・科目の合計得点(900点満点/各教科の配点は()内のとおり。)により行います。

学力試験の成績は、大学入学共通テストの成績(配点110点:上記の合計得点(900点満点)に900分の110をかけた値をもってこの成績とします。)と個別学力検査(第2次学力試験)の成績(配点440点)とを総合(550点満点)して算出します。

(2) 大学入学共通テストにおいて、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の4科目の中から2科目を選択した場合には、合計得点(200点満点)を100点満点に換算して利用します。

(3) 大学入学共通テストにおいて、外国語の「英語」は「リーディング」100点と「リスニング」100点、計200点満点を「リーディング」140点満点、「リスニング」60点満点に換算して利用します。

なお、聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は、「リーディング」100点満点の成績を200点満点に換算し、『英語』以外の外国語を選択した者は、筆記(200点満点)の成績を利用します。

令和5年度東京大学入学者選抜（一般選抜）前期日程試験の実施教科・科目等について〔理科各類〕

学部・学科等名 及び入学定員等 〔令和4年度〕 志願倍率	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		注1		個別学力検査等（第2次学力試験）		注2		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等							注3	その他の 選抜方法等
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	面接	配点	点計		
理科一類 2.7 1,108人 前期 1,108 その他 若干	前期 2月25・ 26日	国 地歴 公民 数	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿・会、情報から1 物、化、生、地学から2 英、独、仏、中、韓から1	国 数理 外	国語総合・国語表現 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物、化基・化、生基・生、地学 基・ 地学から2 英（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニ ケーション英語Ⅱ、コミュニケーション 英語Ⅲ）、独、仏、中から1	約2.5倍	共通テスト	(200)	(100)	(200)	(200)	(200)			110 (900)	帰国生徒 外国人 追加合格		
							個別学力検査	80			120	120	120		440			
理科二類 4.2 532人 前期 532 その他 若干	前期 2月25・ 26日	国 地歴 公民 数	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿・会、情報から1 物、化、生、地学から2 英、独、仏、中、韓から1	国 数理 外	国語総合・国語表現 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物、化基・化、生基・生、地学 基・ 地学から2 英（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニ ケーション英語Ⅱ、コミュニケーション 英語Ⅲ）、独、仏、中から1	約3.5倍	共通テスト	(200)	(100)	(200)	(200)	(200)			110 (900)	帰国生徒 外国人 追加合格		
							個別学力検査	80			120	120	120		440			
理科三類 4.3 97人 前期 97 その他 若干	前期 2月25・ 26・27 日	国 地歴 公民 数	国語 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、簿・会、情報から1 物、化、生、地学から2 英、独、仏、中、韓から1	国 数理 外 その他	国語総合・国語表現 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物、化基・化、生基・生、地学 基・ 地学から2 英（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニ ケーション英語Ⅱ、コミュニケーション 英語Ⅲ）、独、仏、中から1	約3.0倍	共通テスト	(200)	(100)	(200)	(200)	(200)			110 (900)	帰国生徒 外国人 追加合格		
							個別学力検査	80			120	120	120	※	440			

注1【大学入学共通テストの利用教科・科目名】欄

(1) 地理歴史及び公民において、その試験時間に2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定に利用します。

(2) 数学において、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者だけです。

注2【個別学力検査等】欄

(1) 数学Bの出題範囲は次のとおりです。

数学B（「数列」、「ベクトル」）

(2) 理科の出題範囲は次のとおりです。

「物理基礎・物理」 物理基礎、物理の全範囲から出題します。

「化学基礎・化学」 化学基礎、化学の全範囲から出題します。

「生物基礎・生物」 生物基礎、生物の全範囲から出題します。

「地学基礎・地学」 地学基礎、地学の全範囲から出題します。

(3) 英語試験の一部分に聞き取り試験を行います。

注3【大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等】欄

(1) 第1段階選抜を行う場合には、表中に掲げる大学入学共通テストの各教科・科目の合計得点（900点満点／各教科の配点は（ ）内のとおり。）により行います。

学力試験の成績は、大学入学共通テストの成績（配点110点：上記の合計得点（900点満点）に900分の110をかけた値をもってこの成績とします。）と個別学力検査（第2次学力試験）の成績（配点440点）とを総合（550点満点）して算出します。

※ 理科三類の面接は、総合判定の判断資料とします。

理科三類入学者の選抜においては、学力試験（大学入学共通テスト及び第2次学力試験）及び調査書に加え、面接試験の結果を含めて総合的に判定し、将来、医療や医学研究に従事するのにふさわしい資質を持った受験者を、合格者とします。したがって、学力試験の得点にかかわらず不合格となることがあります。なお、面接試験では、受験者の人間的成熟度、医学部への適性、コミュニケーション能力等を評価します。

(2) 大学入学共通テストにおいて、外国語の「英語」は「リーディング」100点と「リスニング」100点、計200点満点を「リーディング」140点満点、「リスニング」60点満点に換算して利用します。

なお、聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は、「リーディング」100点満点の成績を200点満点に換算し、『英語』以外の外国語を選択した者は、筆記（200点満点）の成績を利用します。

別紙 3

過去3年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等（一般選抜）

令和4年度

日程	科 類	募 集 人 員	志 願 者	倍 率	受 験 者	合 格 者	入 学 辞 退 者	入 学 者
		人	人	倍	人	人	人	人
前 期 日 程	文 科 一 類	[前期] 401	1,285	3.2	1,187	405	1	404
	文 科 二 類	[前期] 353	1,090	3.1	1,039	357	0	357
	文 科 三 類	[前期] 469	1,498	3.2	1,391	469	1	468
	理 科 一 類	[前期] 1,108	2,978	2.7	2,734	1,121	9	1,112
	理 科 二 類	[前期] 532	2,235	4.2	1,849	547	2	545
	理 科 三 類	[前期] 97	421	4.3	326	97	0	97
	計	[前期] 2,960	9,507	3.2	8,526	2,996	13	2,983

※また、受験機会確保等で受験者17人、合格及び入学者1人

令和3年度

日程	科 類	募 集 人 員	志 願 者	倍 率	受 験 者	合 格 者	入 学 辞 退 者	入 学 者
		人	人	倍	人	人	人	人
前 期 日 程	文 科 一 類	[前期] 401	1,264	3.2	1,183	403	0	403
	文 科 二 類	[前期] 353	1,016	2.9	985	355	0	355
	文 科 三 類	[前期] 469	1,455	3.1	1,388	469	0	469
	理 科 一 類	[前期] 1,108	2,989	2.7	2,744	1,122	3	1,119
	理 科 二 類	[前期] 532	1,980	3.7	1,833	546	6	540
	理 科 三 類	[前期] 97	385	4.0	335	98	0	98
	計	[前期] 2,960	9,089	3.1	8,468	2,993	9	2,984

※また、追試験で受験者6人、合格及び入学者1人

令和2年度

日程	科 類	募 集 人 員	志 願 者	倍 率	受 験 者	合 格 者	入 学 辞 退 者	入 学 者
		人	人	倍	人	人	人	人
前 期 日 程	文 科 一 類	[前期] 401	1,409	3.5	1,186	407	1	406
	文 科 二 類	[前期] 353	1,111	3.1	1,051	361	1	360
	文 科 三 類	[前期] 469	1,433	3.1	1,400	470	1	469
	理 科 一 類	[前期] 1,108	2,925	2.6	2,737	1,125	10	1,115
	理 科 二 類	[前期] 532	1,968	3.7	1,847	550	6	544
	理 科 三 類	[前期] 97	413	4.3	330	97	0	97
	計	[前期] 2,960	9,259	3.1	8,551	3,010	19	2,991

※各年度とも追加合格はありません。

別紙 4

過去3年間の合格者最高点・最低点・平均点（一般選抜）

令和4年度

日程	科 類	第1段階選抜合格者				第2次学力試験合格者			
		満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
前期日程	文科一類	900	856	520	675.62	550	416.2556	302.5889	331.5381
	文科二類	900	847	435	692.31	550	397.0556	306.1444	329.5061
	文科三類	900	840	595	697.77	550	406.6667	305.4111	327.6554
	理科一類	900	864	630	730.01	550	434.6222	303.2333	334.3703
	理科二類	900	860	646	700.02	550	405.3444	287.3778	312.9709
	理科三類	900	860	529	659.06	550	448.1111	347.5111	377.1345

令和3年度

日程	科 類	第1段階選抜合格者				第2次学力試験合格者			
		満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
前期日程	文科一類	900	894	562	743.23	550	436.2667	334.7778	360.8180
	文科二類	900	881	203	746.18	550	438.6778	337.9222	362.0720
	文科三類	900	871	600	770.24	550	421.4556	336.6222	356.8357
	理科一類	900	882	699	789.12	550	456.3333	333.2667	360.7410
	理科二類	900	879	629	764.47	550	440.3333	314.2333	338.5574
	理科三類	900	886	534	757.92	550	480.4333	375.7111	405.5365

令和2年度

日程	科 類	第1段階選抜合格者				第2次学力試験合格者			
		満点	最高点	最低点	平均点	満点	最高点	最低点	平均点
前期日程	文科一類	900	887	621	750.22	550	450.9111	343.9444	374.1542
	文科二類	900	879	612	763.49	550	442.5444	337.6111	361.6561
	文科三類	900	880	575	780.21	550	419.7778	338.8667	358.6730
	理科一類	900	891	681	791.72	550	475.7222	320.7222	352.5810
	理科二類	900	892	626	770.70	550	449.2889	313.0222	336.9197
	理科三類	900	889	611	780.01	550	492.2333	385.6111	414.1081

※ 前期日程第2次学力試験の得点は、大学入試センター試験・大学入学共通テストの成績（配点110点：900点満点を110点に換算。）と第2次学力試験の成績（配点440点）を合算し、550点満点としたものです。

参考

令和6年度以降の東京大学入学者選抜の実施方法等について



令和6年度以降の本学入学者選抜（学校推薦型選抜を含む）の実施方法等について変更等がある場合は、本学ウェブサイト等で随時発表します。詳細については、下記URLを参照してください。

URL <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/index.html>

インフォメーションサービス

 東京大学ウェブサイト <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

次の期間中インフォメーションサービスを行います。

- (1) 出願状況について 
令和5年1月23日(月)17:00～令和5年2月24日(金)
- (2) 追加合格について 
令和5年3月28日(火)9:00～令和5年4月1日(土)

- 大学情報については、以下のサイトをご覧ください。



<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

本学ウェブサイト。大学全般の
情報を発信しています。



<https://kimino.ct.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学をもっと知りたい高校
生・受験生のためのサイト。

○ 入学者選抜等に関する照会先

電子メール nyuusi1.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

郵便 〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学入試事務室

電話 03-5841-1222

※ 照会は、志願者本人が行ってください。